

※ ※

委員長 山 本 忠

一昔前、公営のテニスコートは宮城野原県営コート（青葉山は軟式コートのみ）しかなかった頃、テニスに熱心な人はどこかのテニスクラブに所属し、その中で楽しんでいましたが、自然に同じレベル同志の仲間内テニスになっていた。また、県テニス協会主催の大会は現在同様に開催されてはいたが、一般、壮年、老壮の3種目のみで、健康のためのテニス愛好者は参加しにくかった。丁度この頃、上山先生が一日中テニスを楽しめる会を提唱され、上級者にもんでもらったり、ワンポイントレッスンを受けたり、あるいはテニスを始めたばかりの人の相手をしてしたりして、多くの未知の人々と親交を結び、テニスを通じて各年齢相応の楽しみを見いだすことを目標に壮年テニス連盟を発足させた。

県テニス協会の役員をされていた高橋（龍）先生、山内さんもその趣旨に賛同されて、一番大変な労力を必要とする幹事を引受られ、私も末席をけがしてお手伝をしていた。それからもう9年、その間に会員も100人から約350人に増え、テニスコートの環境も大きく変わり、また皆さんの腕前もかなり上達し…、これらを一口で言えば時代が変わり、壮年テニス連盟も変わったとでも云うのでしょうか。

今回はからずも委員長を引受ることになりましたが、まず初心に帰り、それに環境の変化を加味して魅力あるテニス大会を企画して行きたいと思っております。皆様もこれについて、大いに意見を出して企画に参加していただきたいと思ひます。参加の具体的な方法などを委員の方々と相談しながら、一生懸命努力致しますので、どうか宜しくお願い致します。

◆◆◆◆吉沢幸雄先生を偲んで◆◆◆◆

樋 渡 滋

吉沢幸雄先生は、去る平成6年2月10日、87歳で逝去されました。

先生はテニスをこよなく愛されて、お仕事（東北大学資源工学科教授、東北学院大学機械工学科教授）を辞められてからも、一時期体調を崩されたとき以外は、機会あるごとにコートに出かけられ、テニスを楽しんでおられました。長身を利したリーチの長い独特のテニススタイルは、今でもわたしの目に焼きついてます。都市対抗の仙台市チームの一員として何度かご一

緒しましたが、長老としてチームをまとめる中心的存在であり、その試合態度は紳士としての風格が感じられました。清廉高潔で円満なお人柄と、信念に裏付けられた決断力、それらが表現されるごまかしの無いプレーなど、テニスマンの鑑となるものでした。

宮城県および東北地方のテニスの草分けとして、県テニス協会会長・東北テニス協会副会長を歴任され、また、壮年テニス連盟創立時から参加されて、我々をご指導下さいました。そのご功績は忘れることが出来ません。

先生のご冥福を、心からお祈りいたします。

■■■お願いとお知らせ■■■

平成6年度の年会費の納入をお願いいたします。会費の納入は同封いたしてあります郵便振替用紙をご利用下さい。手数料不要（加入者負担）ですし、間違いが少なくなります。また、納入済みの方は用紙を破棄して下さい。（個人会員2,000円、家族会員3,000円）

県テニス協会主催の大会に出場するためには、県テニス協会に個人登録料として、年間1,500円を納入し

なければなりません。連盟事務局からも年度始めに団体加盟費を納入する際、一括して支払うことも出来ますし、後日、大会に参加する時、大会参加料と一緒に県テニス協会に納めることも出来ます。

連盟事務局にハガキ等を郵送される場合には、宛先を正確にお書きくださるようお願いいたします。特に番地（松が丘 7-21）をはっきりとお書き下さい。

★平成6年度前期委員総会報告★

平成6年度前期委員総会が3月26日(土)18時30分より片平市民センター3階会議室にて開催されましたので御報告いたします。

◆出席者：山本 忠委員長

(代表委員) 菅野志津子 中村克宏 平井正光
星 猛夫 和田美代子
渋谷陽子(委任)

(運営委員) 和田武士 渋谷妙子 千葉鴻二
坂爪みや 高橋重郎 玉置雪枝
本間満雄

(幹 事) 高橋龍雄 伊藤一利 大賀延行

◆委員長挨拶：議事に先立ち、山本委員長より壮年テニス連盟も会員が400名になろうとする位の盛況になっている。すべての会員に満足してもらえようにするのは無理かも知れないが、会員の意見を広く聞きながら皆で楽しいテニスが出来よう進めて行きたい。と抱負が述べられた。又壮年テニス連盟の長老であった吉沢幸雄先生が亡くなられたことが報告され、哀悼の意が表された。

◆議 題

① 報告事項

- i 会員移動：庶務担当運営委員より3月22日現在の会員総数344名(男子191名、女子153名、家族66組)と報告された。
- ii 平成6年度諸競技会：競技担当運営委員より2月11日及び3月21日に行った「室内ダブルスを楽しむ会」(参加者2/11 36名、3/21 32名)について報告された。
- iii 会報 No.17の発行について：広報担当運営委員より会報 No.17を4月15日ごろ発行予定で作業を進めている旨報告された。
- iv 運営委員の役割分担について：副委員長より本年度の運営委員の役割分担(別掲)について報告された。

② 協議事項

- i 平成5年度決算について：会計担当運営委員より別掲資料に基づき決算報告がなされ、全員一致で資料通り承認された。
- ii 平成6年度行事予定について：競技担当運営委員より別掲(行事予定表)が提案、説明され、原案通り承認された。

- iii 平成6年度予算案について：会計担当運営委員より、別掲の予算案が提出、説明され、原案通り承認された。

③ その他

- i 月例会ポイント設定(案)について：競技担当運営委員より、月例会をより楽しく、又参加意欲を盛り上げる為に壮年連盟独自のポイントを考えている。これは勝敗で付くポイントだけではなく、月例会に参加した回数でもらえるポイントなども加えたものとした旨提案があり、具体的な方法については運営委員会に一任された。
- ii シニア関係のテニス大会について：シルバー・シニア担当の伊藤幹事より、宮城県テニス協会の大会種目に男子55才以上、60才以上、65才以上、70才以上、女子50才以上、55才以上、60才以上のベテラン種目がつくられたので、大会に多数参加するように、また今年の宮城県シルバー交流大会は6月4日(土)、7日(水)に山形県天童市で行われる予定。昨年地区分け予選の点で問題のあった日本シニアテニス連盟は今年個人参加で4月26、27日に兵庫県で大会を行うことになり、当連盟会員からも数名が参加すると聞いている。ねんりんピックはまだ日取りは確定していないが今年香川県小豆島の予定となっている、等の説明があった。
- iii 月例会のあり方について：月例会にもっと多くの人に参加してもらうにはどうしたら良いかと言うことで討議され、パートナー無しで1人で来てもらっても充分楽しんでもらえる事をPRし、実際にそのように運営すると共に、ゲームコートと別に練習コートを設けてストローク、ボレー等の練習が出来るようにしようとの意見がまとまった。
又、アンケートなどで会員の意見、希望を確認することも必要であり、具体的な方法を運営委員会で検討して行くこととした。
代表委員の方々にも折にふれて会員各位の意見を聞いて頂くようお願いした。

以上

副委員長 本間満雄

★新しく入会して★

櫻沢 富雄

入会して最初に技量別ダブルス大会へ参加させていただいた時、諸先輩達の元気なこと、またレベルの高いこと、それになにより皆さん明るく楽しくプレイされていたことに感銘しました。

最も若い私が緊張していたせいもあるのか、最初に息が上がってしまったのが今でも思い出されます。

テニスに対する情熱は当連盟に入会されている方は十分あり過ぎるほどだと思います。勝ったときの楽しさ、負けたときの苦い味、笑ってごまかしている口惜しさ、さまざまな思いが誰にでもあると思います。その思いで練習しかつ勝負に臨んでるのではないかとも思います。

私も当連盟に入会し、まず楽しく健康的なプレイを目指し年相応の奥深い技術を諸先輩達から盗み、追っつけ後輩諸氏が入会してきた暁には、その奥義を披露できるよう、それなりに頑張りたいと思います。

よろしくお願い致します。

*** **

*** テニスと私 ***

岩月 賢一

小さい時からテニスは好きだった。そのころにはラケットなどとも買ってもらえなかったので、手のひらでボールを打ち合ったり、木の板に柄を付けて、ラケット代りにして遊んだ。

ラケット(racket)という語は、手掌を意味するアラビア語 rāhah(複数rahāt) からきたと辞書に出ているのを見て、なるほどと思った。昔は手のひらでボールを打ち合ったのであろう。ついでながら tennis は、フランス語の tenir(to hold) の複数命令形 tenez の古い形 tenetz からきた語で、プレー開始のときサーバーが相手に対し、「受けよ！」と呼び掛けたことに由来するそうだ。

ところで、私は中学から高校、大学にかけては専ら軟式をやっていたが、昭和25年に信州大学に就任してから間も無く硬式に転向し、その後は下手の横好きそのままに、テニスは生活の一部ようになった。松本では何人かの「テニキチ」の一人で、凍てついたコートで元旦に打ち初めをしたこともある。昭和33年に東北大学に移ってから、医学部に硬式庭球部をつくり、退官するまで十数年部長をしてきた。当時の新入生は庭球部に入ると、まず私とシングルの試合をするこ

とにしていた。入学当時には軽くない学生にも、卒業の頃には全く歯が立たなくなり、『論語』の「後生畏ルベシ。焉ソ来者ノ今ニ如カザルヲ知ランヤ」の意味がよく分った。東北大医学部のOBを含めた春秋二回の岩月杯トーナメントは、今も楽しい年中行事で、欠かさず参加をしている。昨年の敬老の日には、町内の老人クラブからゲートボールへ勧誘をうけたが、清酒一本を持参して懇懇に断っておいた。

私にとってテニス歴は随分長いが、語るべき戦績といえば、昨年秋の第十二回全日本医師テニス大会において、満七十歳以上の超高壮年ダブルスで優勝したぐらいのもので、大抵の場合は参加することに意義を認め、もって自ら安んじている。齢古稀を三歳も越えたこのごろは、勝敗よりも今後いつまでできるかが課題である。先にあげた『論語』の一節の後には、「四十五ニシテ聞コユルコト無クンバ、斯レ亦畏ルルニ足ラザルノミ」と続いているが、私はこれに代って、「六十七にしてコートに立つこと無くんば、斯れ亦テニスマンと言うに足らざるのみ」と書き添えたい。

もともとスポーツ(sport)という語、フランス語のd-éporter<ラテン語disportare:dis(away)+porare(to carry) からきた語で、「持ち去る」、「気晴らしをする」というのが原義だそうだ。とすれば、勝敗にこだわってストレスになるようでは、スポーツの本義にもとる。とはいえ、試合に出れば勝ちたいのが人情だし、勝てばやはり嬉しい。いつかある本に、老人には他人に迷惑をかけないで、一人で遊べるオモチャが必要だと書いてあった。幸い私にはテニスというオモチャがある。若い人の邪魔にならず、美しく老いるために、これからもほほどほほどテニスを続けたいと思っている。

(いずみ、33巻9号、昭和61.11)

[この一文は、当連盟会員最長老(大正2年11月13日生)の岩月賢一先生の随筆集『落穂集』(平成元年発行)のなかから先生のお許しを得て、転載させていただいたものです。会員の皆さんもご承知のように、先生はすこぶるお元気で、当連盟主催の行事には殆ど参加されて、ますます磨きのかかったスライスボールを駆使され、若輩の私達を悩ませておられます。昨年11月には第二番目の随筆集『余滴集』が出ており、次の機会にご紹介できるのを楽しみにしております。編集者]



==== 会員異動 ====

会報No.16掲載以降、次の方々が入退会されましたのでお知らせいたします。
 会員総数344名、男子191名、女子153名、家族66組です。

期日	氏名
1/1	角田 満 置田輝雄 真樹子 富樫清子 菅原昭夫 小松逸郎 藤巻静子 奥本富江 佐々木優子 鷺尾純子 小野寺栄子 岩井美苗子 桑田千恵子 三浦加代子 齋藤郁子 宮岡友子
1/16	栗野司 敦子
1/14	台野清子 八重樫トモ 石井好子 加藤弘子 青木美智子
2/3	島貫孝子
3/14	児玉諭 洋子 山田稔 与志子
3/17	熊田清子
3/22	鈴木昭悟

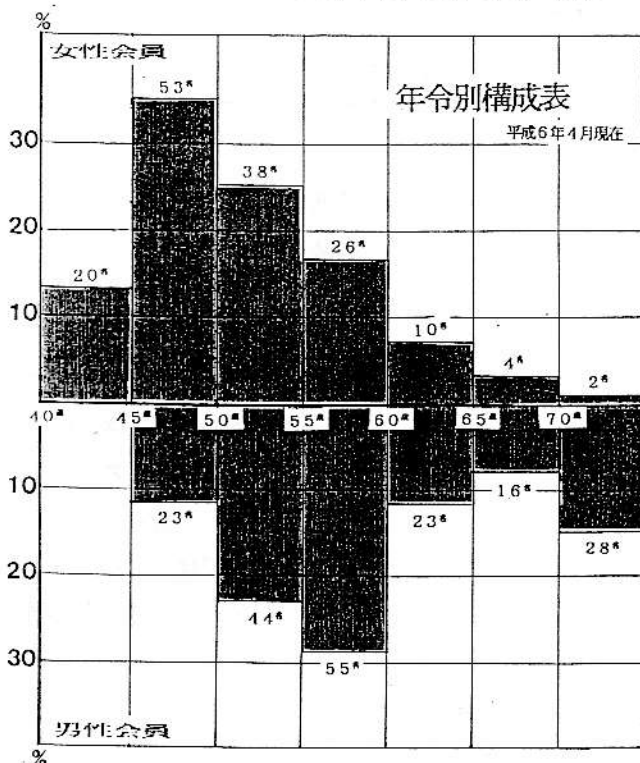
以上の他、会費未納による自然退会者34名



【宮城県壮年テニス連盟の年齢構成】

次の図は平成6年4月現在の当宮城県壮年テニス連盟の男女別年齢構成を5歳間隔で示したものです。女性会員と男性会員の年齢構成には明らかな違いがあります。女性会員は40～44歳が20名と少なく、45～49歳の53名をピークとし、年齢が高くなるにしたがって漸次会員数が減少する傾向にあります。男性会員の場合には、45～49歳は23名、50～54歳は44名、55～59歳は55名と増加の傾向を示し、60歳以上は極端に少なくなっていますが、70歳以上の会員が28名という特異値を持っております。男女ともに最も若い年齢層の会員が少ないのは、この年齢層のテニス人口が少ないのではなく、「壮年テニス」という言葉からくる若さにたいするマズナスのイメージと、競技志向より、楽しみのテニスという印象が会員数を少なくしている原因の一つであるとも考えられます。

(次のページへ)



かに厚生省主催の「ねんりんピック」が存在するのみでありましたが、高齢化社会の到来とともにテニスを生涯スポーツとして楽しんでおられるシルバー層テニス人口の増加という事実、こうした方々を対象とした大会をとる動きは逐次昂まりつつあり、当連盟の呼び掛けではじまった「東北シルバーテニス交流大会」がその一つであり、また先般お知らせいたしました日本シニアテニス連盟の活動（4月下旬に開催される全国大会には、会員の久保、室賀、本間、小野氏らが参加されますので、土産話をご期待下さい。）なども生まれております。

こうした中で、当県テニス協会が今までは一般へのテニスの普及、選手の養成等と多くの課題を抱えているため、なかなか手がまわらなかったシルバーグループを対象とした種目の公式試合への採用に踏み切ったことは、高齢化社会の進展という時代背景に加え、高橋龍夫氏をはじめ関係者の配慮で本年から実現をみたという経緯があったようです。今年は前掲の春期トーナメントのほかに、6月4日には別稿紹介の春期テニスマスターズ（仮称、昨年までは宮城県シルバテニス大会）、9月の宮城県選手権、11月の秋期テニスマスターズ（仮称）と、4回の大会が組まれているとのことでありす。

当連盟の会員数は約350名の大所帯となっておりますが、中でもシルバーと呼ばれる年齢層の方々は会員の半数以上を占めており、世間の同年代の方々とは比較にならない元気さで、技術的にも気力的にもますます

す旺盛かつ円熟した活躍をみせておられます。一方では今更テニス協会の公式試合などに出て勝敗を競うなど考えていない、楽しむだけ、とすでに悟りきっておられる方もおありかと思えます。しかしながら、どうでしょう？物は考えようで、県テニス協会の「公認試合」などという名に拘らずにチョッピリ興奮の伴うゲームを生涯テニスを志す仲間同志の久しぶりの顔合わせの場と考えて活用され、まだまだこんなに元気に活躍しているグループのあることを世間の同年代軍団にアピールするのも愉快ではないでしょうか。

確かに開催要項の周知方法、パートナー探しのお手伝い、その他、当連盟としても 会員の方々のためにいろいろ考えていかねばならぬこともあると思えますし、皆さんから積極的なご助言をご期待申し上げますが、何よりもまず「よし！それでは出てみるか」と奮い立っていただかなければなりません。どうか永年培ってこられた円熟の妙技を、友好第一、勝敗第二のお気持ちでご参加いただき、お互いに生涯テニスを通じて一層の心身の健康維持を目指すための手段の一つに加えてみては如何なものでしょうか。

※会員の方から、先般の春期トーナメントのお知らせの中の「登録料」についてのお尋ねがありました。この「登録料」は県テニス協会主催の試合I出場する場合のみに必要とされるもので、壮年テニス連盟主催の行事のみに参加される場合には必要といたしませんので念のため。



【WEEKDAY交歓会、月例会】

が面白くなる？

運営委員会では前期委員総会における代表委員の方々のご意見を参考にし、マンネリ化しつつあるWEEKDAY交歓会と月例会の実施内容を検討し直しつつあります。、今年より、① ゲームコート、練習コートを設け、単にゲームのみを楽しむだけではなく、不得手なバックハンドストロークを改善したり、スライスサーブを覚えたり、ボレー技術を習ったり、そんな



「シルバー」という文字に抵抗感？

「シルバー大会というと、なんだか、老人達が背中を丸めているようでイヤだな」「イヤ、白銀の渋さが感じられて上品でイイヨ」侃侃諤諤、いろいろなご意見が聞こえてきます。「呼び名にコダワルことはないよ。中身だよ、ナカミ！」半分ヤケっぱちな言葉も出てき

ま ま ま ま ま ま ま ま

練習の場を作る。② ダブルスペアの年齢の和による年令別ダブルス大会を月例会に開催する。などの新しい試みを考えております。基本的にはWEEKDAY交歓会および月例会は都合の良い時間に、一人でも気軽に参加出来るというメリットを保ちつつ、より楽しい行事にしたいと考えております。今後、アンケート等により、会員皆さんのご意見を伺うつもりであります。よろしくご協力ください。 運営委員会

ます。県テニス協会では、昨年まで、ねんりんピックおよび東北シルバーテニス交流大会の選手選考を兼ねた県シルバーテニス大会が協会公認試合になるのを機会に、名称を「宮城県テニスマスターズ春期大会」と変更する予定だそうです。今年の大会は6月4日、宮城野原庭球場で開催されます。出場有資格者には後日連絡がなされる予定です。ご準備下さい。

平成6年度宮城県壮年テニス連盟
年間行事予定表

宮城県壮年テニス連盟				仙台市テ協会 県テ協会 東北テ協会関係			
月日	曜日	行事名	会場	月日	行事名	会場	
4 13	火	WEEKDAY交歓会	宮	4 16～	県春期トーナメント	宮泉	
5 5	祭	年齢別ダブルス大会	泉	5 19～	桑名杯レディーステニス大会	宮	
5 25	水	WEEKDAY交歓会	青				
6 9	木	WEEKDAY交歓会	宮	6 4	宮城県シニアテニス大会 兼ねんりんピック予選	宮	
6 19	日	月例会	青				
7 6	水	WEEKDAY交歓会	宮	7 2～	国体県一次予選	宮	
7 17	日	月例会	泉				
8 7	日	技量別ダブルス大会	泉	8 24	WEEKDAY交歓会	青	
		WEEKDAY交歓会					
9 9	金	WEEKDAY交歓会	宮	9 3～	宮城県選手権	宮	
9 18	日	月例会	青				
9 24,25		対いわきVTC親善試合		9 7～	朝日レディーステニス大会	宮	
				9 23～	仙台市民大会(壮年)	東部5号	
10 6	木	WEEKDAY交歓会	宮	10 25～	県レディーステニス大会	宮	
10 16	日	混合ダブルス大会	泉				
10 23	日	月例会	青				
11 2	水	WEEKDAY交歓会	宮	11 6	対女子連定期戦	泉	
11 6	日	対女子連定期戦	泉				
12 3	土	懇親会					

【会場】 青：青葉山公園庭球場 泉：泉総合運動場庭球場 宮：宮城野原庭球場



■■■■ INFORMATION ■■■■

★対いわきVTC親善試合★

今年は当連盟が主管です。期日は9月24,25日に決定しておりますが、会場は未定。遠刈田温泉、松川浦岩沼グリンピア等候補地選びが大変。

★WEEKDAY交歓会★

年間行事表に掲載されておりますように、今年は計8回の会を開催いたします。原則として、その都度のご案内はいたしません。開催時間は9時より4時までです。ご都合の良い時間にお誘い合わせの上、ご参加下さい。会費は800円です。

★東北シニアテニス交流大会★

今年の上記大会は山形県天童市に新設された山形県総合運動公園庭球場で開催されます。宿泊は天童温泉ホテル王将の予定です。

★ねんりんピック'94★

瀬戸内に沈む夕陽がとても印象的なひその名も夕陽ヶ丘にある「小豆島カバリアテニスコート」で開催されます。

編集発行 宮城県壮年テニス連盟運営委員会